

NST通信

お知らせ

◆委員会

11月26(木) 16時00分～ 講義室

◆勉強会

11月26(木) 17時40分～ 大会議室

◇症例検討 or ミニレクチャー or 論文紹介
N2・3F

NST 通信では各部署のNST 委員の方に記事担当をお願いしてトピックスなどを紹介しています。

今月は**4東病棟**の担当です。

麻痺のある患者の食事介助



- ① 基本的には座位で軽度頸部前屈位とします
ただし、むせ込みのある患者や座位のとれない患者の場合は30° 半座位とします
姿勢が傾く方には、麻痺側にクッションや枕を設置します
- ② 咀嚼・飲み込みがしやすいように非麻痺側の口に食材を運び
麻痺側の口腔内に食物が残っていないか確認します
1回量は、ティースプーン1杯程度にします
あまり量が少なすぎても嚥下反射を誘発する刺激になりません

麻痺があり自己摂取する方には…

- ・皿の下に滑り止めを敷くことで皿を安定させる
- ・介護食器に変更する
- ・握りやすいように太柄のスプーンを使用する



食後は食物残渣が口腔内にはないか確認し
食後は 30 分程度は仰臥位を避けます



半固形状流動食のメリット・デメリット

臨床栄養 2020.2 より 栄養管理室

半固形流動食は、胃食道逆流の抑制などの臨床的効果が期待されています。
2014年には我が国初の医薬品、ラコール®NF 配合経腸栄養用半固形剤が発売され、
2018年には在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料が新設されました。



半固形状流動食のメリット

①肺炎予防

粘度が高いことによる胃食道逆流抑制

②下痢予防

半固形流動食には増粘剤やペクチンなど食物繊維が多く含まれる事、胃排出遅延、小腸の通過時間の延長による

③高血糖予防

急速な胃排泄がなく、小腸通過時間も延長するため、また食物繊維の含有量が多いことも関与の可能性はある

④褥瘡予防と介護負担軽減

短時間注入・便性状改善・誤嚥性肺炎減少による栄養状態改善

半固形状流動食のデメリット

①適応とならない例がある

胃の排泄・貯留・消化吸収能の損なわれた症例には適さない可能性がある(食道切除後、食道裂孔ヘルニア、長期絶食症例など)

②胃内残留・胃石

胃に器質的・機能的障害を有する場合は、胃に残留物・胃石を認める場合がある

③脱水・血清 Na 異常

半固形剤は液体栄養剤と比べ、水分含有量が少ない事が多く注意が必要

また、ラコール®NF は塩分含有量が少なく、Na 補給の検討が必要となる

④注入時にデバイスが必要



当院採用の半固形流動食は、**F2ショット**(テルモ)、**ハイネイゲル**(大塚製薬工場・pHの低下で半固形化)、**ラコール NF 配合経腸栄養用半固形剤**(大塚製薬工場・医薬品)の3種類です。